



No.64 2020.7.14

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

個別最適化？ 探究？ “コロナ禍を経験して考えたこと 想うこと”

Meet de 対話

“コロナ禍を経験して考えたこと 想うこと”

社会が変わる
コロナが襲いた
学校の向こうには？
学校が変わる
学びが変わる
コミュニティ・スクールの推進
未来を創り 社会を支える
新たな学びと育ちのシステムづくりに向けての
SCRAP & BUILD
勉強の時代 → 学校を開く 学びを開く 学びのイノベーション → 学びの時代

- 内容
○今回のコロナ禍の中で現在の学校システム等に対して考えたこと、思ったこと等を交流しながら、これからの学びと育ちの仕組みづくりについて考える。
- 対象 明石市立学校園教職員
※今後、校区の中で保護者・地域の方とこうした対話が広がればと考えています。
- 日時
①令和2年8月04日(火) 15時30分～16時30分
②令和2年8月18日(火) 15時30分～16時30分
③令和2年8月25日(火) 15時30分～16時30分
※①②③より都合のいい日をお選びください。(各回定員15名)
(複数回参加も受け付けさせていただきます。)
- 実施方法
○学校配備タブレットを使用してのMeetによるオンライン対話。
※ご自身の通信環境でご参加希望される場合はご連絡ください。
- 申込方法
○別途学校配布の申込用紙にてお申込みください。〆切 7月27日(月)
- 問い合わせ等
明石市教育委員会 学校教育課 担当 本所・北本
078-918-5055 内線:3417 mail:a.kitamoto@city.akashi.lg.jp

「コミコミスクス No. 63」でご紹介した岐阜県の提言は個別最適化&探究に大きく舵をきったように思います。しかし、個別最適化とか探求といわれてもピンとこないのが現状ではないでしょうか。保護者の皆さんや、地域の皆さんにとってはなおさらだと思います。しかし、個別最適化や探究といった Society5.0 の「学びの時代」への開かれた教育課程の実現を図る新学習指導要領はもう小学校ではスタートしています。そんな個別最適化や探究を視野にいれた教育課程の実現には、教職員だけでなく、保護者や地域の皆さんともそれぞれの立場から今回のコロナ禍でみえてきた現在の教育システムの課題等に対して、感じたこと、考えたこと、想ったことを交流する場が必要だと考えました。まずその第一弾として左のような「Meet de 対話 “コロナ禍を経験して考えたこと 想うこと”」というオンラインの対話を教職員対象で行い、その輪を保護者の皆さんや地域の皆さんへひろげていきたいと考えています。

探究学習って？ どんな探究学習がデザインできるかな？

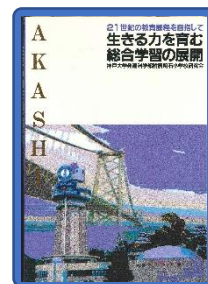


大蔵海岸に打ち上げられたプラスチックごみ

そんなことを考えながら大蔵海岸を歩いていると潮が引いた波打ち際に今話題のプラスチックごみのラインが目に入ってきました。今から 25 年ほど前に埋め立てが始まったこの大蔵海岸を題材に子どもたちと一緒に大蔵海岸の埋め立て地の利用計画を考えたのを思い出しました。最初は明石海峡大橋をのぞむ観光地として考え始めたのですが、他の土地から来てもらうよりも、住んでいる人たちが繰り返し使える施設の方がずっと役にたつということで運動施設や図書館といった施設を考えだしました。今の大蔵海岸をみてその当時の子どもたちはどう思っているのか聞いてみたい気がします。今思うとこれまで蓄えられてきた知

を伝達し解を見つけるのではなく、みんなでこれからにふさわしい納得解を創っていく取組だった

のかなと思います。実はそうした納得解を自分たちで創っていく探究学習の本家が明石にはあり、その実践を今振り返ってみるのもいいのではと思います。



この写真を使って考えてみても、この1枚の写真子どもたちと一緒に保護者や地域の皆さんに見てもらおうと、自分なりの興味や関心が広がるのではと思います。そこで生まれた興味や関心ごとに、子どもだけでなく保護者や地域の方もテーマごとに分かれ一緒に学ぶという探究学習がデザインできるのではと思います。教師一人の力だけでは子どもたちの多様な興味・関心を引き出しきれないし、対応しきれません。同じ興味・関心をもった同士で子どもも、大人も一緒に学ぶ場をデザインしていくことによって“主体的・対話的な深い学び”につながるのではと思います。そうした場をデザインし、学びをコーディネートしていくことがこれからの教師に必要な力ではと考えます。地域を題材に地域の方と一緒に過去や未来を巡ってみることは、子どもたちにとって地域や社会を考えるきっかけになり、未来を創っていく子どもたちに必要な資質・能力を培っていくのではと思います。そうした学びの仕組みを創っていくのがコミュニティ・スクールなんだろうなと思います。

個別最適化って？ 個別最適化を考えるのは今でしょう！

ネットを見ていると“公立の数学（算数）の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体”というちょっと刺激的な見出しがでてきました。まさにこの記事は個別最適化に関わるものではと思います。

東洋経済オンラインより（抜粋）

日本の一斉授業は本当にこのままでいいのかコロナ禍をきっかけに、私たちの生活や仕事などいろいろな面で見直しが行われている。この機会に、小中学校の授業のあり方も見直す必要があると思う。なぜなら、日本でずっと行われてきた授業スタイルの“限界”が明らかになっているからだ。

.....

今までの学校は、教科の学習で最大40人の一斉授業が当然とされてきた。日本の教育予算はOECD37カ国の中で最下位で、先生の数が少なすぎて個別対応ができなかったし、ITを活用する環境も機運もなかった。だから、一斉授業を行うしかなかったのだ。でも、今ではIT活用する環境もあるし、機運も醸成されてきた。だから、この機会に個別学習に大きく舵を切っていくべきだ。それは新型コロナへの対策にもなる。つまり、今後、新型コロナ危機の第2波が来たときも、子どもの学習権を保障することができる。第2波が来たとき、また学校が大量のプリント宿題を子どもとその親たちに押しつけるなどということは絶対に許されない。

<https://toyokeizai.net/articles/-/361033>

街を歩くと個別学習と書かれた看板が最近増えたとお感じの方も多いと思います。個別学習に塾がシフトし始めて数年は経つと思います。そして今回のコロナ禍の中でオンラインにもいち早く対応できたのは、授業のあり方を一斉授業から個別学習へと意識が変わってきていたということもあるのではと思います。“個々のペースで学びこぼしのない仕組みをつくるということを今それぞれの学校で考えないと”といった危機感を私は持っています。学校外でそうした自分にあつた学びを経験した子どもや保護者は結構いると思います。校内研究を思い切って学びの仕組づくり的なものに切り替える時期がきているのだと思います。それは、コロナの第2波への対応ではなく、これからの学びを創っていくことにつながっていくのだと思います。そうしたこれからの学びを創る当事者としての、教職員・保護者の皆さん・地域の皆さんの対話が必要なんだと考えます。（文責：北本）